

# TETSUYA KUMAKAWA BALLET TOKYO ジゼル

## 〈登場人物相関図〉



## 〈第1幕〉

舞台はドイツの農村。

村娘のジゼルには、ロイスという恋人がいる。実は貴族でその名をアルブレヒトというが、身分を隠して村人になりすましているのだ。そうとは知らないジゼルはロイスの愛を純粹に信じ、共に過ごすその姿は幸せにあふれている。

一方、ジゼルに思いを寄せる森番のヒラリオンは、ロイスの存在に疑念を抱いている。ジゼルとの仲を裂こうと間に割って入るが、どこか威厳に満ちたロイスの態度を前に引き下がるしかない。

葡萄収穫祭の女王に選ばれたジゼルは、ロイスと共に村人たちの踊りの輪に加わる。生まれつき心臓の弱いジゼルを心配する母は「踊り続けるとウイリになってしまおう」と恐ろしい伝説を語り聞かせる。ウイリとは結婚前に命を落とした乙女たちの精霊。夜な夜な森に迷い込んだ男たちを捕らえては死ぬまで踊らせるという。

そこに大公と娘のバチルドら狩りの一行がやって来る。バチルドは実はアルブレヒトの婚約者。慌てて身を隠すロイス（アルブレヒト）の姿を目にしたヒラリオンは、彼の小屋に忍び入り、その正体が貴族であるという確証をつかむ。

恋人の嘘と裏切りを知ったジゼルは、深い絶望のあまり狂乱し、ついに息絶える。哀しみに打ちひしがれるアルブレヒト――。



## 〈第2幕〉

森の中にある墓地。

ジゼルの墓を訪れていたヒラリオンの前に  
ウイリたちが一瞬姿を現す。

恐れおののき、慌てて逃げるヒラリオン。

ウイリの女王ミルタのもとに、ウイリたちが集まってくる。

今夜はジゼルが墓から呼び起こされ

精霊の仲間入りをする特別な夜なのだ。

ほどなくして、アルブレヒトがやって来る。

愛する者を失った深い哀しみと後悔の念にさいなまれる彼は  
百合の花をジゼルの墓に捧げてひざまずく。

すると、墓からウイリとなったジゼルが現れ、舞い始める。  
再会するふたり。

一方、ウイリたちに追われるヒラリオンは

逃れようと必死にもがくが

取り囲んだウイリたちによって踊らされ

ついには息絶えてしまう。

今度はアルブレヒトを狙うウイリたち。

逆らえず踊り続けるアルブレヒトだが

精霊となつてなお彼への愛を失っていないジゼルは

女王ミルタに恋人を助けてほしいと懇願する。

やがて夜が明け始め、ウイリたちが墓へと戻る時が訪れる。

ジゼルは「もうここに來てはいけない」と

恋人に永遠の別れを告げ、静かに消えていく。

そして、ひとり残されたアルブレヒトのもとに

朝陽が差し込んでくる――

